



福岡医発第 952 号 (地)
令和 4 年 7 月 1 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 蓮 澤 浩 明
(公 印 省 略)

医療従事者の安全確保について

令和 3 年 12 月、医師や患者ら 25 名が死亡する診療所放火殺人事件が発生し、翌月には在宅医療を行っている医師が患者家族より銃殺される事件が、さらに、6 月 27 日には福岡市内の医療機関において、医師が診察中に刃物で刺されるとい痛ましい事件が発生しました。

このように、医師を始めとする医療従事者が診療に関連する事件に巻き込まれるケースが多発していることから、今般、福岡県及び福岡県警察本部（以下、「県警」）、福岡県訪問看護ステーション連絡協議会の協力のもと、暴力・暴言への対策啓発ポスター（令和 4 年 6 月 30 日付け福岡医発第 930 号（地））を作成いたしました。

さらに、県警と協議の結果、県警より各警察署に対し各医師会と緊密な連携及び安全確保に資する必要な支援を的確に実施していただくよう指示がなされました。引き続き、県警と連携を図りながら犯罪抑止に向けた取組及び犯罪発生時の対応について会員への周知を行ってまいります。

つきましては、貴会におかれましても各警察署と緊密な連携を図り、医療従事者の安全確保のための取組を推進していただきますようお願い申し上げます。

また、福岡市医師会では、今回の事件を受けて会員に対し別紙のとおり防犯対策・安全管理対策の徹底について周知されておりますので、貴会会員への周知の際のご参考としていただきますようお願いいたします。

小郡三井医師会より

医療安全管理担当理事 田中英二
会長 島田昇二郎



【 重 要 】

令和4年6月29日

会員各位

福岡市医師会
会長 平田 泰彦

医療機関における防犯対策・安全管理対策の徹底について

既に報道がなされておりますとおり、6月27日（月）に福岡市東区の千早病院において、本会会員が診察中に突然乱入した男性にナイフで刺されるという痛ましい事件が発生しました。当該会員は大けがを負ったものの、幸い命に別状はないということですが、昨今では医師や医療従事者を狙った殺傷事件や暴力行為のほか、コロナ禍に乗じたカスタマーハラスメントも多発しています。

本会では、会員及びその家族、従業員が各種犯罪等によって、日常の診療業務並びに生活が阻害されることを防ぐために「福岡市医師会防犯連絡協議会」を設置し、会員向け講習会の開催や警察との緊密な連携を図っていますが、会員医療機関におかれましては、いま一度、院内における防犯設備や安全管理体制をご確認いただきますとともに、安全管理対策マニュアルの整備や職員教育等を通じて、防犯意識の向上に努めていただきますようお願いいたします。

- ・ まずは自身の安全を確保し、不審者と距離をとり各々が逃げること
- ・ 暴力等をおこす可能性のある患者・家族への対応を決めておくとともに、職員間での情報共有を図っておくこと
- ・ 来院した患者・家族に対し、こまめに「声かけ」を行うこと
（相手に「いつも見られている」という印象を与えるため）
- ・ 可能な経費の範囲内で、効果的な防犯設備・システムの拡充を検討すること（さすまた、防犯ブザー、催涙スプレー、監視カメラ増設など）
- ・ 有事の際に逃げる動線を確認し、日頃から訓練しておくこと
- ・ いざとなったら110番通報をためらわないこと

※ご不明な点がございましたら、福岡市医師会事務局（総務課：TEL 852-1502）までご相談ください。